

第2学年3組 国語科
 単元名：なりきり詩集を作ろう
 「心がうごいたことを」

指導者 田村 瞳

児童の願い

見たことや経験したことから物になりきって詩を作り、いろいろな人に伝えたい。



ゴール

物になりきっている詩を書いて2年3組のなりきり詩集を作る。

本単元で付けたい力

- ・見たことや経験したことなどから詩の題材を決め、見たことや感じたこと、音などを言葉に表し集めることができる。 【書くこと ア】
- ・見たことや経験したことから集めた語と語の続き方に注意して、短く詩にまとめることができる。 【書くこと ウ】

言語活動

見たことや経験したことから物になりきって詩に表し、2年3組のなりきり詩集を作る。

学びのモニタリングの視点(育成したい資質・能力)

	A	B
【主体性】	・なりきり詩集を書く活動に向けて、必要な言葉を集め、複数の物になりきって詩に表そうとしている。	・なりきり詩集を書く活動に向けて、必要な言葉を集め、物になりきって詩に表そうとしている。
【思考力】	・なりきる物について経験したことから想像を広げ、よりよい言葉を選びながら詩に必要な言葉を見付けている。	・なりきる物について経験したことから想像を広げ、詩に必要な言葉を見付けている。
【自己理解】	・見たことや経験したことから物になりきり、詩として表し伝える楽しさに気付き、日常生活でも詩に親しむことの大切さに気付いている。	・見たことや経験したことから物になりきり、詩として表し伝える楽しさに気付いている。

「課題発見・解決学習」の過程(8時間)

学 習 活 動	育成したい資質・能力	
<p>家庭学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ○冬休みの思い出を日記に書く。 ・冬休みに経験した出来事を絵日記に書く。 		
<p>課題の設定(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○物になりきっている「なりきり詩」について考え、詩への関心を高める。 ・「なりきり詩」を読み、なりきっている物を考えたり、どういう経験を詩にしているのかを考えたりしながら、詩への関心を高める。 ・物になりきって気持ちを考え交流し、感じ方によってさまざまな詩ができるおもしろさに気付き、自分も作りたいという意欲をもつ。 ・それぞれ経験したことから物になりきって詩に表し、なりきり詩集を作るという学習課題を設定する。 【本時】 	詩の並行読書 	
<ul style="list-style-type: none"> ○「なりきり詩」を基に、詩の特徴を考える。 ・「なりきり詩」を基に詩の特徴を知り、学習計画を立て、単元で付けたい力について考える。 		主体性
<p>情報の収集(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○なりきる物について考える。 ・冬休みの出来事や日常生活を振り返りながら、どんな物になりきれるかを考え、交流し合う。 		思考力

学 習 活 動		育成したい 資質・能力
整理・分析（３） ○冬休みに経験したことなどから「なりきり詩」を書き，交流する。 ・冬休みの思い出を書いた日記からなりきりたい物を選び，物になりきって気持ちを考え，詩に表す。	詩の 並行 読書 ↓	思考力
・身の周りからなりきりたい物を決め，物の気持ちを考え，詩を書く。		思考力
・友達の詩を読み，いいところや面白いと思ったことを交流し合う。		思考力
まとめ・創造・表現（１） ○詩集にのせる詩を完成させる。 ・友達の詩を読みよかったところをもとに自分の詩を見直し，詩を完成させなりきり詩集を作る。		思考力
常時活動 ○完成したなりきり詩集を保護者の方に読んでもらい感想をもらう。		
振り返り（１） 学びのモニタリング ○自らの学びや学び方を振り返る。 ・なりきり詩集を作る活動を通して，見たことや経験したことを詩として表す楽しさに気付く。 ・単元の初めに立てた「ゴールの見通し」の視点で作品を基に自らの学びを振り返る。		自己理解